

15年が過ぎました

升島 努

平成元年にこの薬品分析化学教室の責任者になって、早15年が過ぎました。振り返れば、いろいろな事のあった15年ですが、15回の謝恩会を、全部アルバムも何も無くつぶさに思い出せるほど記憶は定かでは無くなり、記憶の危うさと共に、月日はあやうい記憶の中で実にあつという間に過ぎ去って行ってしまいます。この辺りで、一度、定年と思って、これからは心機一転、第二の人生を始めましょうか。

この15年を大きく分けると幾つかの区切りができる気がします。最初の5年の黎明期、画像、見える分析の確立に明け暮れた年でした。その前の助教授時代の発見-X線光音響効果を「うちの小槌」の様に振り予算を取って来ては、この新しい挑戦を軌道に乗せるためにつぎ込んだ時代でした。幸い悦ちゃん達を始め、みんなの努力でようやく軌道にのりました。そして支えてくれた杉山先生が教授になって巣立って行きました。つぎの5年はイメージングを細胞相手に本格的に適用する時代だったかも知れません。これで、みんなと一緒にいい仕事をしてくれた小澤先生が教授になって巣立って行きました。そして最近の5年は、質量分析にも目を注いだ時代だったというべきでしょうか。尾島君や清水君そしてみんなの奮闘のお陰で、1細胞質量分析が何とか形になりました。

これからの5年は、どんな時代になるのでしょうか？ きっと、質量分析とイメージングが合体する時代では無いかと思います。そして、それが1分子イメージングまでに発展すると思います。もう一つの側面は、教室発ベンチャー創生の時代となるかも知れません。現在教室は、ビデオマスコープの実現に精一杯の努力を傾けています。細胞の変化を見ながら、その瞬間瞬間の分子動態を同時に質量分析法で追跡する。ある意味、バイオサイエンス、ライフサイエンスの夢の実現と言えば格好が良いのですが、それに向かって邁進中です。勿論、分析法ですから限界もあるでしょう。それはやり遂げた人間にのみ分かる事です。

そして、その関係で、どうしても質量分析器を教室で作らざるを得なくなりました。そこに経済産業局から、地域の産業界を伸ばしながら、新しい産業創生をと1億2千万円のお金が託された訳です。

この地域産業界を伸ばすと言う仕事は、技術を見せて貰うのが楽しく、そこにも

アイデアが次々に湧く自分にはとても楽しい仕事です。かくして、いろいろな
地場産業の技術を現場で見せて貰って、その可能性と限界を楽しく議論します。
時には、その会社の製品のアイデンティティーカラーについて相談を受けたり
までします。広島には実に広い産業技術基盤があるなと感心しました。それぞ
れの企業の特徴を現場で知ると、よしこの技術でこれを、その技術でここまで
をと、色々な発想が飛び出します。いままでなら、その時、企業にお金の事で
悩ませましたが、今度は、僕が沢山のお金を託されています。実に有効にお金
を使って貰って、新しい製品、新しい技術の開発が進みます。もう三菱重工広
島からは新しい真空用ターボポンプが開発されました。他にもできあがって来
ているものがあります。できあがりへの僕の厳しさは別にして、お互いに楽し
いおつきあいです。一方、杉山先生は、発酵工学のオリジンを生かされ、バイ
オ関連分野で産業界とこれも豊かなおつきあいを最近されるようになり、中国
醸造から新しい入浴剤を出されるなど様々な産学連携の成功例を作り始めてお
られます。分野はちがっても、お互いなかなかやるものだと、内心誇りに思っ
ています。

来年春、いよいよHUMANIXというベンチャーを立ち上げます。これは、
HUMAN「人」を科学する会社の思いと、HU広島大学がかかっています。
人の為に科学する機器を製作する、人の為に科学した道具を提供する、そんな
思いで、まずは、新しい培養顕微鏡、そして、汎用質量分析器、そしてビデオ
マススコープなどの先端機器へと向かって、この事業はスタートする予定です。
狙いは「日本のライフサイエンスを加速する」それが最重要テーマです。それ
に先だって、HUNANOという学生ベンチャーがグループ会社としてスター
トします。これは、みんなが苦労して作ってくれたナノスプレーチップが、意
外にも既製品（外国製）よりも性能が良く安定しているという事が分かったの
で、日本の質量分析ユーザーにのみ安価に提供しようと始めるものです。すこ
しサイズが違ったので、サイズを1.2mm径にしての量産法を、今度企業から博
士課程に入って来てくれた青木さんが確立し、企業センスを生かして開始して
くれることになりました。きっとこの田園通信がみんなの手元に届く頃、発表
となると思います。開発してくれたみんなには、うまく売ればボーナスがあ
るかも知れませんよ。期待しないで待っていて下さい。そして、みんなの苦労
した成果が、世の中に役立つ事を楽しみにして居てください。事業の本当のす
ばらしさは、お金儲けなんかでは全然なく、自分が汗し、苦勞し、考えた結果

が、世の中の役に立つ、それを見るすばらしさだと思っています。

このコンセプトから、事業に関係する特許のみ権利化し、それ以外は、できるだけ、権利化しないで、全ての企業が使えるよう公開する方針です。私達の教室で考えた特許という形をした知的財産を、社会への研究成果活用法の公開という形で還流するという考え方です。自分のアイデアなどが、社会の中で、色々な形で、有効に活用されている事を見るのも、もう一つの楽しい事だと思います。私達の研究室は、そういう意味でも、社会と深い繋がりのある、社会に貢献する教室になりたいと思っています。

更に来年度から、附属病院臨床検査部と次世代医療解析センターをスタートさせ、また、第一外科の末田教授とは、先端医療デバイス開発センターをスタートさせます。これは、いよいよ当研究室の臨床進出をスタートさせるもので、卒業生の皆さんも、是非社会人博士課程、修士課程制度を利用して戴き、再入学して戴き、未来の臨床への布石作りに協力して下さい。このままでは、臨床の時代は遠いと感じ、仕方がないと、重い腰を上げました。

「新しい教室への移転」

来年3月に、いよいよ教室が出来て23年余を過ごしたこの建物から、旧東病棟4階奥（旧産婦人科病棟）に移転します。教室の移るスペースは、産婦人科の元陣痛室、分娩室、保育室などで、この建物の中では、一番明るい場所でした。きっと移った私達も、今度は、科学というテーマにはなりますが、産みの苦しみと育てる喜びを噛みしめる事になると思います。何かの縁なのでしょう。同じ建物の2階に、HUMANIXなど当教室のベンチャースペースも与えられる予定です。1階には、新しくなった機器センターが半分を占め、残り半分は、産学連携や社会連携オフィス群で、これらも僕が面倒を見ることになると思います。その関係で、現薬学棟に居ては動きが大変であることと、念願の全室1フロアでの教室の実現という願いも叶い、移転することにしました。今、旧病棟は、完全に内装がはがされ、壁はコンクリートも一部はがされ、3月には殆ど新築同然となって、我々の前に姿を現すことと思います。

皆さんの中には、思い出の詰まったこのスペースからの移転を残念に思われる方が少なくないと思います。そこで、2月末から3月には、どうか一度教室を訪れて戴き、何か思い出の品を持って帰って戴きたいと思っています。同時に今

度移転する場所も、この頃ですと見る事ができると思いますので、ご案内します。そして、心の中で、場所をつないで下さい。3月中に一度、みんなで思い出の会をこの教室を会場に開催しようかとも思っています。懐かしい思い出の教室とお別れをする会、そして、新しい門出を迎える場所を見る会にもしたく思います。どうかお時間のご都合がつく限り、お集まり下さい。

この様にして、月日が走馬燈の様に過ぎて行きます。毎日仕事に追われ、書類や電話やつぎつぎに来られる沢山の人とお会いしているだけで、一日が終わる事の多い今日この頃です。好きな日本画を楽しむ暇も無く、運動不足対策にかろうじてゴルフに興じるのが楽しみです。先日ハーフ41が出せ、この先の上達に期待しています。親友が、ドライバーに次いで、特性のフェアウェイウッドの開発をしてくれているとか、その新兵器に期待しましょう。小さなゴルフはすまいと、ずっとこれも志だけは大きく保って来ました。その志が真の形になるのは何時でしょうか。もう一つの子供の頃からの趣味、車、愛車BMWとともに、趣味の世界でも、伸び伸びと楽しんで進んでいきたいと思っています。

どうか皆さんの益々のご活躍と、大いなる人生を心よりお祈りしています。

平成15年11月1日 記